公共事業再評価調書

(1/3)

整理番号 H21 - 9

担当部課名	県土整備部	道路課	電話番号	017 - 734 - 9651
			E-MAIL	doro @pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件 未着工 長期継続 (10年) 再評価後 (年) その他 (

1 事業概要 事業種別 道路事業 事業主体 県 市町村 その他(屏風山内真部線 事業名 市町村合併支援事業 地区名等 市町村名 五所川原市 喜良市 事業方法 県単独 財源・負担区分 100 % 市町村 % その他 % (用地着手 採択年度 平成 12 年度 平成 12 年度 / 平成 17 年度) 工事着手 終了予定年度 (平成 月 工期変更 当初計画時 平成 ・主要地方道屏風山内真部線は、つがる市車力地内の鰺ヶ沢蟹田線を起点とし、国道339号と交差し、青森市内真 部地内の国道280号を終点とする幹線道路である。 一本路線の内、五所川原市喜良市地区は、車道幅員が狭小(Wmin = 4 . 5 m)であることから、車両のすれ違いに支 障を来しているため、通行機能強化、安全で円滑な交通の確保を目的として、3種3級、設計速度50km/hの規 事業目的 格で現道拡幅事業を実施している。 当初計画時 区 分 再評価時 増 減 計画延長 800 m 800 m 0 計画幅員 6.0(9.0) m 6.0(9.0) m 0 m 改良工 787 m 787 m m 舗装工 7,200 m² 7,200 m² m 主な内容 0 橋梁工 1 橋 1 橋 0 橋 ・事業計画については、当初計画時と比較して変更はない。 ・橋梁部における事業精査により総事業費が増となった。 〇当初計画時総事業費 300 百万円 (単位:百万円) ~18年度 19年度 20年度 21年度 小 計 22年度~ 計 321 385 事業費 7) 8) (うち用地費) 1)) () ((〈 年 月変更〉 実 績 86 61 73 135 355 30 385 (うち用地費) 8 0 0 0 8) 0 8)

2 評価指標及び項目別評価

//\ = #6\#\					
(1) 事業の進捗	F 状况		(A) · B · C		
		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗		
	事業費割合	92.2 % [/]	110.6 % [/]		
事業の准件出口	(うち用地費)	(100 %) [/]	(120 %) [/]		
事業の進捗状況	主要工種 改良工 (275 百万円)	100.0 %	120.1 %		
	毎割合 舗装工 (40 百万円)	52.5 %	63.6 %		
	(事業費) 橋梁工 (70 百万円)		101.7 %		
説明					
問題点・ 解決見込み	・事業を進めるに当たっての阻害要因は無く、順調に事業の進捗を図ることが出来る。				
事業効果 発現状況	(部分供用なし)				

(2)	社会経済	青勢の変化	(A) · B · C
社会的評価	全国・本県における評価	的がラ効率的な垣崎登禰を推進し、社会・経済の活性化と、は未登禰区间が多く、社会基盤登 暮らしの豊かさの向上を図ることとしている。 する要望は多い。	兄であるが、県内の道路
"-	当地区における評価	・五所川原市から道路整備要望が出されている。	
	必要性	・当該路線は県管理道路であるため、青森県が事業主体となって行う必要がある。 ・当該工区は、前後区間が計画断面で完成供用しており、当該区間L=800mのみ車道幅員 るため、交通安全上支障となっている。	が狭小であ (a). b
	適時性	・当工区の前後区間が改築済みであることから、道路規格の不連続性を解消する必要がある。	(a). b
	地 元 の £進体制等	・五所川原市から、早期整備が望まれている。 ・事業に対する地元の理解が得られており、全ての用地が取得済みである。	a. b
	効 率 性	・津軽半島を横断する道路としての屏風山内真部線の機能強化が図られる。	•

(3) 費用対効果分析の要因変化 A) В С 区分 主な項目 当初計画時 再評価時 増 減 - 百万円 1)事業費 386 百万円 - 百万円 - 百万円 - 百万円 2)維持修繕費 60 百万円 - 百万円 - 百万円 百万円 費用項目 3) (C) 4) - 百万円 百万円 - 百万円 - 百万円 - 百万円 5) 百万円 総費用 - 百万円 446 百万円 - 百万円 - 百万円 - 百万円 1)走行時間短縮便益 141 百万円 - 百万円 2)走行費用減少便益 - 百万円 8 百万円 - 百万円 3)交通事故減少便益 - 百万円 百万円 4)冬期便益 - 百万円 77 百万円 - 百万円 便益項目 - 百万円 5)防災便益 - 百万円 463 百万円 総便益(B) - 百万円 689 百万円 - 百万円 地域修正係数(Φ) 1.507 修正総便益(B') - 百万円 1,038 百万円 - 百万円 費用便益比(B/C) 1.54 費用便益比 修正費用便益比(B'/C') 2.33 【費用対効果分析手法】(分析手法、根拠マニュアル等) ·費用便益分析マニュアル(平成20年11月 国土交通省 道路局 都市·地域整備局) ・道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱(平成18年10月 青森県 県土整備部 道路課) 費用対効果分析 (a). b (B/C) 【計画時との比較における要因変化】 当該工区は、事業着手時点において県単独事業として着手したことから費用対効果分析は実施していなかった が、今回新たに費用分析を実施し再評価を受けるものである。 計画時との比較 b а

		_	
(4) コスト縮減	・代替案の検討状況	(A) · E	3 · C
コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 ・路盤材・舗装合材に再生材を使用し、経費の縮減を図ることとしている。 ・排水施設等の小規模構造物については極力、工場製品を使用し、工期の短縮及び経費の縮減る。	붗を図ってい	a). b
代 替 案	【代替案の検討状況】 ・比較ルートとしては、北側パイパス及び南側パイパスルートが考えられるが、大規模土工のことから、現道拡幅を基本とし起点部の河川橋梁では、仮設道路等の設置が不要な橋梁新設にフトを行う現在実施中のルートが経済性、環境面からの配慮の上から最適である。		a. b

(5) 評価に当力	とり特に考慮すべき点		(A) · B · C
住民ニーズの 把握状況	【住民ニーズの把握方法】 五所川原市から整備要望がなされている。	【住民ニーズ・意見】 当該区間は急カーブが連続しており、前 み線形との連続性が保持されていないこ な交通上支障となっていることから、早 まれている。	とから安全
環境影響への配慮	廃棄物処理等 道路(車歩道 低層建築物の建設 高架構造物の (3)対応内容 ・切土または盛土により植生等を改変する場合は、張芝・低騒音・低振動仕様の重機を使用している。 ・産業廃棄物は再資源化施設へ搬入し、リサイクルに努	の改変 水系や水辺の変更 階での重機の使用 土砂等の搬出・搪 値),雨水排水路の設置 基礎や地下建造物 の建設 海底・海中建造物・ 等により緑化を行い代替措置を講じている。	吸入 物の建設 の設置や建設 a b
地域の立地特性	・当該地域は、過疎地域、振興山村地区、豪雪地間	帯、積雪寒冷特別地域及び半島振興対策地	咳に指定されている。

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続	計画変更	中止	休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	・全ての項目が A 評値が可能であることから		「向けた地元の要!	望も強く、完成予定年度を1年繰り上げて完了すること
備考				

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり		対応方針(対応方針(案)を修正すべき	
委員会評価	継続	計画変更	中止	休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)	
附帯意見					
評価理由					